

行政評価シート(事後評価)

コード 7-4-4	事務事業名 資源収集事業	所管部課 生活環境部ごみ減量推進課
--------------	-----------------	----------------------

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	家庭から排出された再利用可能な資源物を有効活用するために収集し、処理施設へ搬入する。	<input checked="" type="checkbox"/> 法律 <input checked="" type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等 / 補助の概要: 補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等	
	市内を4地区に分け、地区ごとに週2回の収集を行う。平成19年10月からは分別が変更となり、不燃ごみからプラスチック容器包装類、金属類を新たに資源として収集を行っている。 (19年10月以前)びん・缶・ペットボトルは、市が週1回収集。古紙・古布は、委託業者が週1回収集。 (19年10月以降)びん・缶・ペットボトルは、市が週1回収集。古紙・古布・プラスチック容器包装類は、委託業者が週1回収集。金属類・廃食用油は、市が4週に1回収集。	
事業開始時期	合併前から 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業費データ	項目	単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	事業費(A)			33,658	38,414	205,907
財源	国庫支出金・都支出金	千円				
	地方債					
内訳	その他()					
	一般財源		33,658	38,414	205,907	372,059
所要人員(B)	人		68.00	67.00	64.00	57.00
人件費(C)=平均給与×(B)	千円		556,580	546,787	522,304	465,177
臨時職員等賃金(C')	千円		7,795	7,535	11,712	
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円		598,033	592,736	739,923	837,236
単位当たりコスト						
(E)=(D)/(収集量)	千円		60	60	60	#DIV/0!

評価指標の設定	活動等指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	収集日数	実績値	日	195	198	232	
	実績値						
(指標の説明・数値変化の理由 など)							
	成果指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	一 次 収集量	目標値	トン	13,671	14,094	12,566	12,556
実績値		トン	9,944	9,926	12,251		
二 次 総資源化(リサイクル)率	目標値	%	34.0	35.0	26.2	26.2	
	実績値	%	23.3	31.5	37.1		
(指標の説明・数値変化の理由 など) 総資源化率 = (資源ごみ量 + 集団回収量 + 収集後資源化量) ÷ (総ごみ量 + 集団回収量)							

事業環境等	市民・関連団体等の意見(アンケート結果など)	平成20年度に市民アンケートを実施するので、その中で資源収集についても意見を聞く。	
	都内26市のサービス水準との比較(平均値、本市の順位など)	<input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下	多摩地域では、金属類を資源化している自治体は少ないし、廃食用油を資源化している自治体はない。この面では、本市が進んでおり、資源化促進とともに財源の確保にもつながっている。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法律により、自治体の事務と定められている。

コード 7-4-4	事務事業名 資源収集事業	所管部課 生活環境部ごみ減量推進課
--------------	-----------------	----------------------

【一次評価】

検証項目	ランク		一次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等	
事業の優先度(緊急性)	3			<input type="checkbox"/> 拡充	<p>平成19年度は、収集委託の1台あたり単価の見直しを行い、経費削減を行った。金属類は、資源処理業者に売却益が見込めるため、費用対効果は高い。古紙については、平成20年度に向けて契約内容の見直しを行う。 今後も民間委託を進めながら、効率化を図っていく。</p>
事業の必要性	3			<input type="checkbox"/> 継続実施	
事業主体の妥当性	3			<input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し	
直接のサービスの相手方	3			<input type="checkbox"/> 抜本的見直し	
事業内容等の適切さ	2			<input type="checkbox"/> 休止	
受益者負担の適切さ	3			<input type="checkbox"/> 廃止	
市民ニーズの把握	2				

【二次評価】

検証項目	ランク		二次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等	
事業の優先度(緊急性)	3			<input type="checkbox"/> 拡充	<p>資源物の回収については、プラスチック容器包装類の分別回収等も始まり、成果が上がっている。ただし、目標値よりも10ポイント以上実績値が上回っている状況は、目標値の設定に問題があるのではと思われる。 廃食油の活用や、プラスチックの再資源化を市民の目に見えるような形にすることが、市民のリサイクル意識の向上に寄与するものと考えられる。 プラスチックの再資源化に要する経費については、今後の技術革新に注視し、節減の可能性について常に配慮することが望ましい。</p>
事業の必要性	3			<input type="checkbox"/> 継続実施	
事業主体の妥当性	3			<input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し	
直接のサービスの相手方	3			<input type="checkbox"/> 抜本的見直し	
事業内容等の適切さ	2			<input type="checkbox"/> 休止	
受益者負担の適切さ	3			<input type="checkbox"/> 廃止	
市民ニーズの把握	2				

【行革本部評価】

行革本部評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>目標値を上回るリサイクル率を達成しており評価する。今後は、技術革新の動向等に配慮しつつ経費削減に取り組むことで、より効果的な事業となるよう努力されたい。なお、廃食用油については、地域資源循環型社会の視点から有効活用する方策について、今後研究されたい。</p>